

## グループホームさっちゃん家2018年度 総括

はじめに

下半期、5名の退所者がある。(入院2名、死亡2名、特養入所1名)。半数の入れ替えで、他入居者の精神面等を懸念するも特に問題は見られなかった。この期、2名の方を看取らせて頂いた。医療連携、ご家族との話し合い、職員間のカンファレンス等で思いを一つに出来たことは日ごろのケアの自信にも繋がったのではと思っている。住み慣れた環境で、顔なじみの入居者、職員と普通の生活をして頂いたことに、家族の方から感謝の言葉が聞かれた。よりよいケアをして行く為にも観察力、判断力が重要視される。

### I 「地域から圧倒的選ばれる事業所」を目指して

- ・利用者の声を大切にスタッフとしてできる個別支援に取り組みます。  
利用者の重度化に伴い、その方に応じた支援を行った。利用者に声掛けをしながら出来る事を日々生活の中に取り入れた。
- ・地域、家族との交流を深めます。  
地域との交流は定期的に行うことが出来た。毎月の地域サロン、年間行事のお花見、金田天満宮の豆まき等の参加。ボランティア園芸班の四季の植栽、野菜収穫等、鍬を持ち頑張る利用者もおられる。秋祭りでは、利用者家族、地域の方達が多く参加してくださり、利用者の笑顔も見られた。毎年恒例になっている施設行事には地域の協力は不可欠であると実感する。
- ・接遇の向上を目指し信頼して頂ける事業所を目指します。  
職員間で、発言、態度を意識しながら対応した。
- ・家族・利用者との交流の場を作ります。  
誕生月にご家族へ声を掛け、皆でお祝いすることが出来た。遠方のご家族へは、さっちゃん家通信で報告し、喜ばれた。
- ・看取りへの勉強会へ参加します。  
2名の方の看取りをさせて頂いた。事前に診療所の看護師により学習会(心構え)を行い穏やかな送りをさせて頂いたと思っている。

### II 「学び、考え、実践する」職員を育成し、働きがいのある職場づくりを目指して

今年度は、職員体制が整わず、外部研修ができなかったが、法人内の施設研修を受け入れていただき、個々の施設の役割を理解し、自施設での考えを見直す良い機会となった。運営推進会議では、入居者、職員が参加し、情報提供、共有ができた。

### III 利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える事業所運営を確立するために

- ・利用者の体調管理では、毎日のバイタルチェックを行い、早期発見、予防に努めた。
- ・医療機関との連携を図り迅速に対応できた。
- ・感染学習会への参加、職場会議での感染学習会を行い、緊急時の対応、行動が取れるよう再度、確認をしていった。

- IV 事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と地域住民との協力共同を実現します。  
毎年恒例のそうめん流し、お飾り作り、お餅つき、とんど焼きでは、金田保育園児、地域の方々の参加で賑やかな行事になっています。これらの行事では、友の会、地域の方々の協力で開催されます。今回建替えにと、47,000円のご寄付を頂きました。  
毎月1回、園芸班との環境整備を地域の方、職員で実施しています。
- V 利用者、職員、地域住民のいのちと安全を守る為に
- ・ 避難経路を明確にし共有する。
  - ・ 火災報知機点検を行う（業者）避難訓練を年2回実施。
  - ・ 今年度は建物被害を出さない為にも、災害警報がでる度に窓ガラス等の養生を業者に依頼した。
  - ・ 委員会を開き危険箇所、避難グッズの整備をした。
- VI 民医連を通じて社会保障、福祉諸制度の動向にアンテナを高く揚げます
- ・ 新聞には、なかなか目を通すことができなかったが、「いつでも元気」は、誰もが手に取り見る場所へ置いた。他県の情報を知ることができた。
  - ・ 友の会の紹介で、地域訪問を行い、目標件数を達成できた。
- VII 社会福祉法人制度改革への対応と「地域における公益活動」に取り組みます
- ・ 町内会、金田天満宮の活動に参加した。
  - ・ 地域のサロンに参加し、口腔体操を行った。
  - ・ さっちゃん家班活動（ちらし寿司販売）を地域へ販売した。
- VIII 事業所の年度目標と事業計画
- ・ 「その人がその人らしく」生活できるよう支援します。  
その方の思いを聞きながら出来る事を探し支援に努めた。
  - ・ ADL低下にならないよう、寄り添い個別支援に取り組みます。  
生活リハビリを取り入れその日の体調に合わせ無理のないよう取り組んだ。
  - ・ 退職者が出ないよう、働きやすい職場作りを行います。  
家庭の事情により2名退職者があった。退職者が出ることで業務が多忙であったが職員一丸となり業務を行った。
  - ・ さっちゃん家での季節行事を開催し気兼ねなく立ち寄れる事業所を目指します  
行事を行う事で少しずつ地域の方と多様な交流ができた。自家の野菜を持って来てくれたり、ホーム内の修繕に来てくれたりと度々顔を出してくださるようになった。
  - ・ 保育園児、開成小学校学童「いなほクラブ」との交流を行います。  
行事の際には案内を出し交流を行った。

## グループホームさっちゃん家 2019年度 方針

待ち望んださっちゃん家建て替え工事が今年度から始まる。開所14年目、至るところに不都合も見られたが、「古民家はおもむきがあっていい」と言われる家族の方もおられる。職員の意見も反映され一丸となって成功させたい。建て替えによる入居者のストレスが心配な点ではあるが、より細やかなケアに心を配らなければならないと思う。

小規模で家庭的な環境の中で、安心、安全に生活ができるよう側面からの支援が求められる。入居者が出来る事、出来そうな事を職員と一緒にやることで、生活に張り生まれ自分らしさを取り戻していただけるような支援を目指したい。

### I 各施設・事業所を取り巻く情勢と地域の変化や介護事業所の動向について

地域密着グループホームとして、住み慣れた地域でその人らしく、穏やかな生活ができるケアを実践している。小規模であるが故の、小競り合いも見られるが長期化することはない。昨年度、重度の方の退所が相次ぎ、空室もなかなか埋まる様子も見られなかったが、法人内居宅の紹介などで落ち着く。法人内情報交換は、小規模事業所にとっての存在は大きい。国は重度になっても、住み慣れた環境でその方に適した介護サービスを利用し最後をと言っているが、さっちゃん家は施設であるために、医療行為はできない。経営的にも介護度の軽い方、重度で入院が頻回になられると経営は困難となる。早期発見と早期治療に目を向けていく。

### II 地域から選ばれる事業所を目指して

- ・ 介護技術、介護知識の向上を図る。
- ・ 地域、家族との交流を深める。
- ・ 入居者の個別の支援外出を計画していく。
- ・ 入居者の声に耳を傾け、コミュニケーション能力を高める。

### III 「学び・考え・実践する」職員を育成し働きがいのある職場を目指します

- ・ 本音で語れる職場会議の運営をします。
- ・ 入居者、家族の方に認めていただける接遇の在りかたを進めます。
- ・ 業務を見直し、入居者へ寄り添える時間を作っていきます。
- ・ 外部研修へ参加し、介護の視野を広めます。

### IV 「利用者の生活を守り、職員の暮らしを支える」事業所経営を行います

- ・ リスクマネジメントの強化（入院者を出さない健康管理）。
- ・ 経費削減を行います。
- ・ 修理等計画的に行います。

### V 事業所が地域福祉の拠点となり「友の会」と地域住民との協力協同を実現します

- ・ 地域行事への参加、関係作りを強化します。
- ・ 友の会の広報活動を積極的に行い、友の会、利用者、地域住民の架け橋をします。
- ・ 定期的な班活動を実施します。
- ・ さっちゃん家年間行事、防災訓練等、地域と協力し行います。
- ・ 地域推進会議を定期的開催し、地域、関係機関との連携を密にします。

#### VI 利用者、職員、地域住民のいのちと健康を守る取り組みを行います

- ・ 地域へ出向き、社会との繋がりを持ちます。
- ・ 定期健診において異常所見があると診断された職員への聞き取り管理を行います。
- ・ 労働中の事故防止に努めます（マニュアルを作成します）。
- ・ 防災、災害に備えた、マニュアル作りを進めます。

#### VII 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障や福祉の諸制度の動向にアンテナを高く揚げます

- ・ 署名活動へ協力していきます。
- ・ 民医連の学習会や行事へ参加するようにします。
- ・ 民医連新聞を活用し社会の動きを学んでいきます。

#### VIII 社会福祉法人制度改革への対応と「地域における公的活動」に取り組みます

- ・ サロン活動に参加し、情報共有し、地域との関係を保ちます。
- ・ 社会福祉法人のミッションとして、地域のニーズに積極的に対応します。

# さっちゃん家デイサービスセンター 2018年度 総括

今年度は、利用計画は徐々に回復し計画は下まわったものの利用者の確保は増加傾向でした。しかし、せっかく新規相談があっても事業所の職員体制により受けることができないケースが相次ぎました。地域との連携はお祭りやもちつき等の行事に地域の方々の協力を得て行うことができ、地域に開かれた小規模事業所としての役割は担うことができました。管理者の交代が相次ぎましたが、利用者、家族に不便をお掛けすることなく運営できたと思います。

## I 「地域から圧倒的に選ばれる」事業所について

### 1) 利用者の生活実態に応じた自立支援を実施します。

昨年に続き、利用者の在宅生活が安心して送れるよう、一人ひとりに合わせたリハビリ（家事、脳トレ、歩行訓練、体操）を行い日課になっています。利用者の生活歴から趣味、特技を把握し、これまでにやってきた社会的な役割を生かして意欲向上に向けた取り組み（地域サロン参加等）も行っています。皆様の楽しみとなり生活の質の向上になっています。

### 2) 栄養（食・口腔・機能）を重視します。3) 楽しみながら機能向上できる運動に取り組みます。

おやつ作りや料理レクを行い、今まで家庭で行っていた役割を取り入れることで楽しみながら機能訓練を行い自信につながる様な取り組みが行えたと思います。また、職員と利用者共同して手作りによりゲームを開発し作って楽しむということを行い機能訓練に繋がったと思います。また、昨年に続いて楽しみながらの「体力づくり」太極拳、気功、ピラティスなどを実施し、運動機能向上に繋がりました。

### 4) 畑や園芸活動を室内で実施し、活動に広がりを持ちます。

昨年に続き畑の野菜、花壇の花を育て植物の生長や収穫を喜び、庭で咲いた花を利用者が飾り育てて楽しむという活動を継続しています。枝豆の収穫により茹でて食べるのみでなく、ずんだ餅を作ったりと幅広く楽しむよう工夫を行いました。

### 3) ニーズがある買い物支援を実施します。

定期的な移動販売によるパンの週2回の販売を継続実施しています。個々の事情により購入制限や金銭の利用が難しいなどあるため今後検討が必要になっています。

### 4) 利用者、家族との多様な交流の機会をもうけます。

さっちゃん家敬老会（グループホーム合同ミニ運動会）は昨年同様に競技やを行い盛り上がり、時間的なスケジュールも順調に事が運ぶことで負荷も適切に楽しんでいただけました。さっちゃん家秋祭りは例年になく盛況で利用者、家族、地域の方々に楽しんでいただけました。年度末には、さっちゃん家感謝のついで利用者・家族・お世話になっている地域の方々に落語を楽しんでいただくことができました。全体として行事には地域の方々が準備から参加して下さり、多様な交流が来ています。

## II 「学び、考え、実践する」職員を育成し、働きがいのある「本音で語れる職場づくり」を目指して

今年度は人員体制より外部研修に参加することが僅かにしかできませんでしたが、研修に参加があったときには職場会議で情報共有しています。また、職員同士でお互いに不適切な発言がないかを目標にお互いで声を掛け合ったり、上司に相談しやすい雰囲気作りといった体制作りを努めました。案件があれば管理者が都度ホーム長と相談し対応を行って来ました。他事業所の見学や運営推進会議の参加は残念ながら人員体制より出来ませんでした。事業所内委員会は12月より再開し行事や浴室等の破損箇所を修繕しました。職員の入れ替わりもありチームワークが取れていない現状があるため、連携強化を図っていくことが課題です。

### Ⅲ「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するために

利用者の体調管理に対して、バイタルチェックを行い、状態異常が見られた際には早期に家族、ケアマネと連携して対応行いました。しかし、デイでの管理では限界があり利用者の体調不良者や入院者が相次ぎました。職員も人員体制が整わず体調不良者が毎月の様に出たため、開所すらも危うい日がありました。資格取得に人員を割く余裕もなく、今年度はありませんでしたが異動により資格保持者は増えました。グループホームの建て替えにより、デイサービス単体での採算が成り立つようにしていく必要があります。新規相談には応えられるよう、職員一人一人の力量を上げ、人員体制を整えば1日の定員を増やすなどの対策をしていく必要があります。

### Ⅳ事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と地域住民との協力協同を実現します

昨年に続き事業所には日常的に来訪者があります。そうめん流し、秋祭り、お飾り作り、餅つき、とんど焼きなどの恒例の季節行事は「友の会」と地域住民と行うことができました。友の会上南ブロック企画の一日旅行、梨狩りに利用者やが参加し地域の方々と交流できました。友の会さっちゃん家班活動の「ちらし寿司販売」が定例になり利用者、地域の方々共に楽しみにしています。毎月第4火曜日のさっちゃん家園芸班活動は利用者もできる範囲で参加したり見学したりしてお互いに楽しまれています。また強化月間の地域訪問では会員の方と一緒に訪問することで、好感触を得たように思います。

### Ⅴ利用者、職員、地域住民のいのちと安全を守るための事業所の使命

定期の年2回の消防訓練は定例通り行えました。また、今年度は実地指導で指摘を受けたこともあり、災害に対しての計画と避難経路を策定するよう指導を受け、マニュアル、計画共に策定中です。例年通り環境委員が定期的に危険箇所点検を行い浴室の側溝等の修繕を行いました。

### Ⅵ民医連活動を通じて社会の動きや社会保障、福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます

昨年に引き続き各種署名活動に協力しました。いつでも元気はだれでも手にすることができる場所に設置し、利用者と共に読んでいます。

### Ⅶ社会福祉法人制度改革への対応と「地域における公益的活動」に取り組みます

社会福祉法人は社会貢献活動を行うという指標に対して、毎月第4火曜日の友の会園芸班活動により地域の美化や花壇、畑の整備を行ったり地域のサロンに参加し介護事業所ならではの話しを行えました。

### Ⅷ事業所の年度目標と事業計画

生活リハビリにより無理なく生活機能向上を行っています。また、楽しみながら体操を行うことで心身機能の向上も行っていきます。食事は楽しみにされており、行事ごとに季節や雰囲気を味わっていただけるようなメニューを提供したり、おやつ作り、料理レクにより自身も参加して食を楽しめるような工夫を行いました。職員の言動に対して上司に相談しやすい雰囲気を作ったり、ひやりはつと用紙により周知徹底しやすいシステムを作りました。職員の入れ替わりもあり、業務も多忙であるため職員間のコミュニケーション不足が見受けられるので、今後は職場会議や面談等を行いお互いを認め合い成長できる職場作りを目指していきます。

# さっちゃん家デイサービスセンター 2019年度方針

地域密着型小規模デイサービスならではの温かみのある環境の中で、自立支援・重度化防止につながるサービスとして「要援護状態になっても一人一人の個性や強みを引き出し、輝ける生活を送れるさっちゃん家デイサービスを目指す」を事業所の方針とし、認知症になってもご本人が生きる活力を持ち、ご家族が安心して地域で暮らせるような居場所作りに貢献していきます。そのために職員体制、業務の見直しを進めて体制を整え、多様なニーズに対応していくことができる基盤作りを進めていきます。

## 各施設・事業所を取り巻く情勢と地域の変化や介護事業所の動向について

地域密着型通所介護事業所として以前よりニーズのあり、当事業所の特色である認知症の方が安心して本人、家族共に住み慣れた地域で暮らしていけるよう、その一端を担う施設であり続けます。また、昨年度は新規相談があっても事業所の人員配置、現状により利用に繋がらなかった方もいたため、人員配置や職員教育を行い受けられるニーズの幅を広げていきたいと思っております。サービス提供時間を7-8時間区分(9:15～16:30)になり、増収はしたものの、送迎時間が非常にシビアになり交通安全の確保や超過勤務が大幅に増大した等の歪も出て来ているため、業務や人員配置の見直しも課題。職員の入れ替わりもありコミュニケーション不全も見受けられるため利用者、家族に不便をお掛けしないよう連携強化を図っていきます。今年度は消費税増税もあり、介護報酬は年度途中より2.16%増になるが、改正時には早めに情報収集を行いスムーズな移行ができるように備えていきます。

## II 「地域から圧倒的に選ばれる施設・事業所」を目指して

- 1) 利用者の生きてきた人生観や価値観、趣味・嗜好を再確認し、職員が情報共有を行うことでそれぞれが主人公になれるレクや企画等を行い当事業所の特色として実施していきます。
- 2) 栄養(食・口腔・機能)の向上をおやつ作りや料理レクを通じて楽しみながら行えるようにします。
- 3) 楽しみながら心身機能向上できる運動に取り組みます。
- 4) 畑や園芸活動を実施し、活動に広がりを持ちます。
- 5) 利用者、家族との多様な交流の機会をもうけます。

## III 「学び、考え、実践する」職員を育成し働き甲斐のある「本音で語れる職場づくり」をすすめます

- 1) 外部研修1人1回以上参加します。
- 2) 他事業所見学をおこない自事業所の良い所や課題を自身で考え実践していけるようにします。
- 3) 面談や職場会議を通して本音で語れるような職場づくりに繋げていきます。
- 4) 運営推進会議へ各職員が参加し事業所の状況を把握し、自身のこととして捉え今後を考えていけるようにしていきます。

## IV 「利用者の生活を守り、職員のくらしを支える」事業所経営を確立するために

- 1) 利用者、職員共に体調管理をこまめに行い、体調不良者や入院者減少に努めます。
- 2) 資格試験に挑戦し、加算取得を目指します。
- 3) グループホームの建てかえに取り組みます。

4) 業務が安全かつ円滑に行えるよう職員一人一人の力量を育成面談、指導により上げると同時に人手不足を解消し適正な業務運営が行えるように体制を整えていきます。

#### V 事業所が地域福祉の拠点となって「友の会」と「地域住民」との協力協同を実現します。

- 1) 地域の行事、活動へ各職員が積極的に参加し、関係作りをすすめます。
- 2) 友の会の広報活動を積極的に行い、友の会と利用者、地域住民の橋渡しを行います。

#### VI 利用者、職員、地域住民のいのちと安全を守り利用者本位のケア実践を進めるために

- 1) 定期的な危険箇所点検を行います。
- 3) 非常災害時に関する計画を整備し、避難訓練を実施します。

#### VII 民医連活動を通じて社会の動きや社会保障・福祉諸制度の動向にアンテナを高く掲げます

- 1) 署名活動への協力をします。
- 2) 民医連新聞を活用し、社会の動きの把握に努めます。

#### VIII 社会福祉法人制度改への対応と「地域における公益的活動」に取り組みます

- 1) 地域の緑化活動を積極的に行います。
- 2) 地域訪問など行い地域へ出向いていくようにします。
- 3) 町内会、金田天満宮の活動に協力します。
- 4) サロン活動に参加し介護保険情報や口腔体操などを提供し地域での役割を担います。
- 5) さっちゃん家班活動（ちらし寿司販売）を地域に広げていきます。

#### IX 事業所の年度目標と事業計画

- 1) 生活機能向上
- 2) ・体力づくりの継続に努めます。  
・「できる事」を見つけ「暮らし」に取り入る。そして「達成感」が得られる個別支援に取り組みます。  
・利用者が食事を楽しみにされている声が多いため、栄養、おやつ作り、体重管理や口腔ケアを含めた「食」に重点を置きます。
- 3) 職場づくり  
・職員の不適切な言動への気づきを喚起するため、リスクマネジメントの「ひやり、はっと」の様な「どうして、そんなことを」の様式を作成し取り組みます。  
・お互いを認め合い、成長できる職場を目指します。
- 4) 地域社会に開かれたさっちゃん家づくり  
・さっちゃん家季節行事を継続し、気軽に集うことができる事業所を目指します。  
・友の会活動に参画し利用者の社会参加につなげます。  
・金田保育園の交流を継続し、開成小学校学童「いなほクラブ」との交流を再開します。  
・金田塾に職員が出向き、若い地域住民との関係を保ちます。